

# (山村活性化支援交付金)

## 雑草と取扱われている山野草を活用した新商品開発

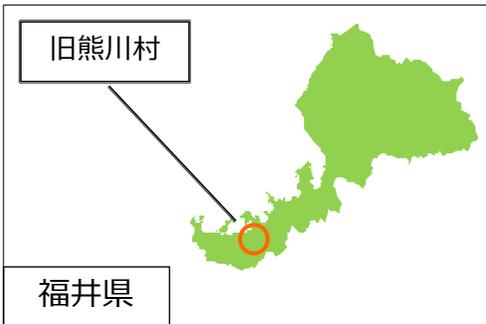
わかさ くまがわ  
【福井県若狭町（旧熊川村）】

### 取組のポイント

- ◆熊川村は若狭と京都を結ぶ旧鯖街道の宿場（熊川宿）にあり、歴史と食文化の往来地点として栄え、日本遺産として指定されているが、特産商品に乏しい状況。地元の若手経営者らの意見を取り入れながら特産品づくりの検討を開始
- ◆地域の山野草は、近年、住民等からは雑草として認識され有効活用がされていなかったが、江戸時代には葛産地として京都で高い評価を受けていたことを想起。葛をはじめ地域内の山野草の価値・可能性を見直し、特産品を開発

### 地区の概要

- ◆ 位置  
福井県若狭町（旧熊川村）



- ◆ 活用した地域資源  
葛（花・葉・蔓・根）  
オオバコ
- ◆ 事業実施主体  
若狭町（観光未来創造課）
- ◆ 主な取組団体等  
熊川葛振興会（野草採取、加工）  
株式会社デキタ（商品開発、PR）  
など
- ◆ 事業実施期間  
R元～R3

### 取組の特色

#### 地域資源の調査や付加価値向上等の取組

- ◆商品化の検討のため、ワークショップ形式による試作検討会を実施
- ◆薬事法令に準拠した成分分析検査を実施し、薬効に係る記載内容を精査しつつ、伝統食材である点をPRできるパッケージデザインを検討・採用



【色、味などを考慮し焙煎法などを検討（くずの葉茶）】



【京都帝絵、江戸判じ絵などを用いて伝統をアピール（くず飴）】

#### 地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

- ◆若狭町主催「若狭三方五湖ツーデーマーチ」（県内外約3,000名参加R4.5.21～22）において「くず飴」の試供品とパンフレットを渡しPR



【スタート地点でサンプルを配布、物販ブースで販売を展開】

- ◆吹田産業フェア（大阪府吹田市R4.6.4～5）に若狭町ブースを出展し、都市部に対してPRを実施  
※来場者数約13,000人（2日間）
- ◆令和4年からふるさと納税返礼品として登録。また、同年、独自ECサイトでも販売を開始

### 取組の成果

- ◆山野草を活用した新商品の開発 7品（うち、現在販売品目：くずの葉茶、くず飴）
- ◆開発商品の新規取り扱い店舗数 0件→8件（R4）（道の駅「若狭熊川宿」、直売所「たいしたもんや」ほか）
- ◆山野草採取の雇用数 0人→3人（株式会社「デキタ」）